

水の色

松岡隆子

つま先の夕日を蹴つて落葉坂
一水の枯を抜け来て透きとほる
探梅の水音昂る方へかな
雪吊の解かるころの水の色
癒え遅々とまた山茶花が散つてゐる

だんだんと眼冴えくる夜の障子
うつつうつと青木の葉照り冬の果
まだ赤くなる気のなくて青木の実
待春の杳脱石といふ平ら
葉牡丹の渦に迷ひのなかりせば
梅咲いて空は青さをととのふる
白妙はこころの色よ寒椿